

令和 7 (2025) 年度
ジュニアゴルファー育成助成金事業
活動報告書

1. はじめに

当財団では、次世代を担うジュニアゴルファーの育成を目的として、令和 6（2024）年度から競技活動を支援する助成金事業を実施している。令和 7（2025）年度も、選手が日々の練習を継続し、国内外の大会に挑戦できるよう、競技活動と練習環境の充実を支援した。助成対象者から寄せられた完了報告では、全国大会での上位入賞や海外大会への出場、専門的なトレーニングを通じた技術・体力の向上などが報告された。本報告書では、選手の活動と成長を振り返り、本事業による支援の成果と今後の課題を報告する。

2. 助成による挑戦の広がり

本年度の助成は、大会参加や遠征、用具の整備、練習・トレーニングなど、選手が競技を継続するための活動を支えた。選手からは、助成によって大会参加の計画を早期に立てられたことや、練習ラウンドや試合の経験を増やせたことが報告されている。国内大会では、日本女子アマチュアゴルフ選手権で 6 位、日本ジュニアゴルフ選手権で 6 位となった選手がいたほか、四国ジュニアゴルフ選手権での 2 連覇、関東中学校ゴルフ選手権の夏季・冬季大会での優勝などが報告された。地域大会から全国大会へと挑戦を重ねるなかで、目標としていた日本女子アマチュアゴルフ選手権と日本ジュニアゴルフ選手権の両大会への出場を果たした選手もいた。

また、JLPGA レギュラーツアーの予選会や本戦に出場し、プロ選手と競う経験を得た選手も見られた。高い競技水準に触れる機会は、自らの現在地を知り、今後の練習や進路を考えるうえで貴重な経験となっている。海外では、世界ジュニアゴルフ選手権への出場に加え、FCG Callaway World Junior Championship で 3 位、SINGHA Thailand World Junior Championship 2025 で 4 位という成績が報告された。海外大会への参加を通じて成果を得た一方、思うような結果に届かず、新たな課題を見つけた選手もいた。助成は、こうした国内外での挑戦と学びの機会を広げる役割を果たした。

3. 成長の実感と課題への気づき

完了報告からは、選手たちが大会への参加と日々の練習を結び付け、自らの課題に応じて取り組みを深めている様子が見えてきた。体力面では、パーソナルトレーニングや専門トレーナーの指導を受ける機会を確保し、ゴルフの動作につながる体幹強化や飛距離向上に取り組んだとの報告があった。指導内容を自宅での自主トレーニングに取り入れ、反復して実践することで、飛距離の伸びや大会での上位入賞につながったと実感する選手もいた。競技環境の整備という面では、助成を活用して電動手引きカートを購入し、起伏のあるコースでの疲労軽減に役立てた事例が報告された。複数日にわたる競技で力を発揮するためには、技術の向上だけでなく、用具や移動を含めた体力管理も重要であることが示されている。

一方で、試合経験が増えたことで、改善すべき課題も具体的になった。アプローチやパッティングの精度、長いコースに対応するための飛距離、プレッシャーのかかる場面での気持ちのコントロールなどが挙げられている。また、海外大会や4日間競技では、最終日まで安定したプレーを続けるための体力と集中力が課題として認識された。

プロテスト合格という目標には届かなかったものの、足りない部分を把握し、次年度の挑戦に向けて重点的に鍛える方針を示した選手もいた。結果を振り返り、課題を次の行動へとつなげる姿勢は、競技成績とともに本事業で大切にしたい成長である。

4. これからへの展望

令和7（2025）年度の活動を通じて、助成が大会への参加機会や練習環境の充実を支え、選手の競技経験と成長につながっていることが報告された。選手からは、支援によって遠征やトレーニングを実現できたことへの感謝とともに、次の目標に向けた意欲が寄せられている。

今後の目標としては、プロテスト合格、全国大会での優勝、ナショナルチーム入り、国内外の大会への継続的な挑戦などが挙げられた。高校進学や大学進学といった環境の変化を見据えながら、競技力を高めるための取り組みを具体的に考える選手もいる。

これらの目標を実現するためには、技術の向上に加え、成長段階に応じた身体づくりや、試合終盤まで安定して力を発揮するための体力・精神面の強化が必要となる。また、練習の成果を試合で確かめ、そこで得た課題を再び練習に取り入れる継続的な取り組みが重要である。

当財団は、今後も選手の活動状況と支援の効果を確認しながら、ジュニアゴルファーが安心して競技に取り組み、自らの目標に向かって挑戦できる環境づくりを支援していく。大会での成果とともに、挑戦を通じて身につく振り返る力や継続する姿勢を大切に、日本・世界で活躍する次世代選手の育成に努めていきたい。

以上